

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

グローバル社会を生きぬく

1 ネットワーク 2 フットワーク 3 ヘッドワーク

3つのワークを大切に、実行できる生徒を育てる学校

2 中期的目標

1. 確かな学力の育成と授業改善。新学習指導要領や高大接続改革及びSDGs（持続可能な開発目標）を踏まえた取組み推進。

(1) ノートパソコン等の端末を授業で活用し、生徒の学習に対する意欲・関心や情報活用能力を高め、これからの知識基盤社会を生き抜く力を育む。

(2) グローバル社会における「国際共通語」としての英語の4技能をバランスよく高め、世界で働くことのできる人材を育成する。

(3) 生徒の進路実現を支援するための進路講演会及び保護者説明会を充実するなど、生徒一人ひとりが個々に応じた進路選択ができるよう、きめ細かい進路指導をおこなう。

(4) 「授業力向上等検討委員会」を中心として、アクティブラーニング、端末を活用した次世代型授業、観点別評価等により、生徒が主体的に参画する授業への改善を図る。教職員研修や生徒授業アンケート結果の活用などにより組織的な授業力向上をめざす。

(5) 「桜塚の総合的な探究の時間」をまとめていく。3年間を通じた系統的な取組みにより、自身の将来に向けた展望を描くとともに、社会に出てからも活用できる知識・技能や興味・関心を身につける。自らが主体性を持ち、「課題に向き合い、解決をめざす」人材の育成を図る。

(6) 新学習指導要領の趣旨をしっかりと踏まえ、観点別学習評価を進める。

(7) 図書館の「学習・読書・情報」の核としての機能再生を整備する。生徒の利用者数が増える取組みを推進する。

(8) 専門コース制を生かし、生徒の学力の効果的な向上による第一希望の進路実現を図る。粘り強く進路実現に向かうことにより、現浪合わせての国公立大学合格者を増やし、令和6年には20名合格を目標とする。(R1 8名、R2 17名、R3 19名)

(9) 教育産業と連携のもと放課後を活用した講習を発展させ、より専門的な知識の習得に向け主体的に取り組む態度を育成する。

※ 学校教育自己診断における生徒向け設問「授業はわかりやすい」に対する肯定的評価(R1 62.4% R2 60.5% R3 74.9%)を向上させ、令和6年度には75%とする。

2. 人間力をつけること、規律、安全安心について

(1) 道徳教育の推進を図る。人間関係構築の第一歩として、「あいさつ運動」を実施すると共に遅刻数を減少させる。規則を守り、礼儀に気をつける。

(2) 教育相談体制の充実。「自己肯定感を大切に」教育を推進し、カウンセリングマインドを取り入れた指導を組織的に行う。

(3) 人権問題に関する正しい知識・理解を深め、様々な人権問題の解決をめざした教育を組織的に推進する。

(4) 地域連携・地域貢献活動・国際交流活動を行うことで異世代・異文化との交流に生徒が参画し、教員は活動を支援・促進する。

(5) 体育祭・文化祭等の行事に安心して参加できる環境を作り、仲間とともに協力し、行事や部活動を通して、生徒に達成感や自尊感情を育む。

※ 年間延べ遅刻者数(R1 2,539人 R2 2,093人 R3 1,832人)を減らし、令和6年度には、延べ1,500人以下とする。

3. 地域の信頼される学校としての桜塚を促進・広報する

(1) OB・OG、豊中市役所の各機関、大学、社会福祉協議会、商工会議所、国際交流協会等の機関との連携と支援を生かした取組みを展開する。

(2) 平成24年度に岩手県立大槌高等学校と締結した「さくら協定」に係る事業を発展させ、東日本大震災の被災地に寄り添い連携する態度のさらなる涵養を図り、持続的な支援や交流を行う。平成30年度の大きな自然災害の経験と、「地域と共に」を大切に「防災」の取組みを推進する。

(3) 広報活動を積極的に行う。Web Pageを更に見やすくし、更新を頻繁に行う。生徒も、更新等に参画。

※ 地域連携に対する生徒の学校教育自己診断の肯定的評価(R1 68.2% R2 - R3 -)を増やし、令和6年度には、70%とする。

(一)は、コロナの影響により評価を実施せず

4. グローバルリーダーの育成

(1) 国際社会で通用する人材を育成するため、異文化や習慣の違いを尊重する精神を育む為に国際交流を積極的に進める。長期、短期の留学生を積極的に受け入れる。

(2) 国際的なコミュニケーション能力を育成するために、国際的共通語としての英語のコミュニケーション能力の育成に努める。「めざす学校像」を実現させる為に、専門コース制を生かし、より英語等を強化し、高い志と夢を持ったグローバルリーダーを育成する。

※ 国際交流活動等に取り組む学校教育自己診断に肯定的評価(R1 84.3% R2 - R3 -)を増やし、令和6年度には、85%とする。

(一)は、コロナの影響により評価を実施せず

5. ティーム力を生かした学校の組織力の向上と活性化

(1) 全・定併置校の特色を活かし、互いの協力関係を密にし、更に有効有意な関係を構築する。

(2) 教科ごとの組織力をアップし、次世代を見据えた教科教育を推進する。

(3) 運営委員会のメンバーは、学校全体の立場からも意見交換を行い、本校の課題に対する基本的な方向性を確立することに寄与する。

(4) 分掌に位置付けられない組織「SPT(Sakura Project Team)」の取組みを推進する。

(5) 「学び続ける」教職員の組織的・継続的な人材育成を図る。

(6) 働き方改革の継続、大阪府運動部活動、文化部活動等在り方方針等を踏まえる。夏季及び冬期休業中に学校閉庁日の実施。

ノークラブデー、全庁一斉退庁日の実施。時間外勤務時間月平均45時間未満をめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
【生徒対象教育自己診断】 ・2項目を除き昨年度から肯定率が増加した。行事、国際交流、地域連携はコロナの関係で昨年度、一昨年度の2年間設問から除外していたが、今年度3年ぶりに復活した。その他の26項目については、ここ2年間で順調に肯定率が上がり、肯定率の平均は令和2年度が75.3%、令和3年度79.3%、今年度が82.9%となった。肯定率が8割を超え	【第一回】<6月10日開催> ・オープンスクールについて、在校生からの説明は良いと思う。学校の雰囲気もわかりやすい。 ・1人1台端末において、ネット上でのいじめや誹謗中傷が起こると想定されるのでその対応をきちんとしておいてほしい。

たことは嬉しい結果であり、先生方の努力や研鑽の結果であると考え

る。
・授業に関する項目が大幅に向上した。授業がわかり易い(82.6%) <(R3 74.9% R2 60.5%)>は初めて8割を超え、授業は学力向上に役立っている(81.2%) <(R3 81.2% R2 72.1%)>と実感する生徒が増加した。

・先生方の「主体的、協働的で深い学び」に向けた授業改善の努力が生徒に伝わり、教え方に工夫をしている先生が多い(73.8%) <(R3 73.8% R2 61.5%)>、授業では自分の考えをまとめたり、発表する機会がある(87.6%) <(R3 78.5% R2 72.7%)>と大幅に肯定率がアップした。教員の研鑽が生徒に伝わり生徒の満足度がさらに教員のモチベーションを高めるといった相乗効果が、授業の質の向上に繋がる。進路実現に必要な学力はもとより、変化し続ける社会を生き抜くために生徒がつけなければならない力をしっかりと定め、今後も「何を学ぶか」という観点に、「どう学ぶか」ということも加味しながら、組織的な授業力を高めていくことが大切である。そのためには、授業力向上に前向きな教職員集団の構築が大切である。特に ICT 機器の活用は、ベテランの先生方にとってハードルが高い。よって、先生方個人の努力だけに頼るのではなく、首席やスキルの高い教員を軸としながら、できることから無理なく進めていく必要がある。今後も、自主的、主体的な研修を通し、中長期的なビジョンのもとスモールステップで推進していきたい。

・「先生は協力して生徒指導にあたっている」(87.4%) <(R3 82.6% R2 76.2%)>、「生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている」(80.1%) <(R3 78.1% R2 72.3%)>と、生徒指導に関する肯定率は3年連続で向上した。日頃から、先生方が一枚岩となりながら丁寧に指導をしている姿、そして生徒の成長を願う思いが生徒にも伝わっていることが伺える。コロナ禍において、厳しい家庭環境に置かれている生徒や友人関係が上手く構築できず精神的に不安定な生徒が多い状況の中、今後も担任団を中心に家庭と連携を取りながら、組織的な生徒指導を推進していきたい。

・「将来の進路や生き方について考える機会がある」(93.5%) <(R3 92.5% R2 85.3%)>は2年連続で極めて高い肯定率を示した。HRや探究の時間を活用したキャリア教育の成果と言える。

・「人権について学ぶ機会がある」(87.4%) <(R3 85.6% R2 85.2%)>も高い肯定率を維持することができた。生徒全てが、安全で安心した学校生活を送ることができる学校であるためには、「自己肯定・他者理解」両面からの人権教育は必要不可欠である。「部落差別問題」などの不易の課題から、「性的マイノリティー」などといった日々情報がリニューアルされるような課題まで、多岐にわたる人権教育をおこなっていくことは高校教育の根幹のひとつである。

・本校における人権教育の充実、ならびに教職員集団の人権感覚(カウンセリングマインド)の向上が、「担任の先生以外に相談できる先生がいる」(62.3%) <(R3 59.0% R2 54.7%)>、「学校では挨拶が自然に交わされている」(80.6%) <(R3 79.0% R2 78.5%)>、「先生は、いじめや相談事について私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」(85.6%) <(R3 85.3% R2 79.1%)>といった肯定率向上に繋がっていると言える。

・肯定率が下がった2項目は「部活動に積極的に取り組んでいる」(79.7% ➡ 76.5%)と「校舎や体育施設は、授業や活動がしやすいように整備されている」(72.0% ➡ 68.2%)であった。

部活動については、コロナの影響が大きいと考えられる。制限の多い中で、ダンス部や軽音楽部、書道部、ラグビー部(選抜)が全国大会に出場するなど、生徒は良く頑張っている。引き続き、with コロナにおける活動が続くが、何とか生徒たちの活動が充実するよう生徒指導部(自治会担当)が中心となり、生徒の活動をサポートしなければならない。

・もう一つの項目である施設面の老朽化は本校独自の努力では如何ともしがたい部分がある。特にトイレの老朽化については、多くの生徒が自由記述においても不満を表している。引き続き、教育庁にこの状況を伝えながら、生徒・教職員が快適に過ごせる環境づくりを進めていく必要がある。

<今後の課題として>

・「担任の先生以外に相談できる先生がいる」(62.3%) <(R3 59.0% R2 54.7%)>は、昨年度から3.3ポイント回復し、6割に到達したものの、まだまだ物足りない値である。生徒の多様化が進む中、生徒相談体制の充実は大きな課題である。引き続き、担任団、教育相談委員会を軸に、さらなる充実が必要である。

【第二回】<10月14日開催>

- ・コロナ禍でやむを得ないところもあるが、部活動の部員数が減少している部もあるので、対策が必要である。
- ・留学生受け入れは有意義である。コロナ禍ではあるが、努力していただきたい。
- ・人権学習の充実は大切である。
- ・SNSの使用によるトラブルについて、今後も粘り強い指導が必要である。学校の施設の問題は教育委員会への要望はいつになれば通るのか？(いつまで老朽化で放置されるのか)避難施設でもあるため、設備に関しては粘り強く交渉してほしい。

【第三回】<1月27日開催>

- ・トイレの整備については、喫緊の課題である。空調も含めて、教育委員会との連携のもと、環境整備をする必要がある。
- ・学校教育自己診断結果(生徒)より「⑩担任以外に相談できる先生がいる」が少ない。生徒の多様化が進む中、複数の教員による見守りが必要である。問題行動についても1対1の関係ではなく、組織で対応しなくてはならない。

【保護者対象教育自己診断】

- ・20項目中15項目の肯定率がアップした。また、全設問の肯定率の平均も82.9% (R3 80.2% R2 74.8) に向上した。
- ・「桜塚高校には他の学校にない良さ(特色)がある」(79.8%) <R3 76.0% R2 61.2% R1 50.6%>はここ3年間順調に増加している。3年間で20%近く向上したことは、教職員の元気に繋がる結果であり、日頃の教員の研鑽が生徒を通じて保護者に伝わったものと思われる。
- ・「桜塚高校は、将来の進路や職業について適切な指導を行っている」(85.0%) <R3 83.7% R2 78.4%>「桜塚高校は、進路に関する情報提供に努力している」(84.3%) <R3 79.1% R2 72.5%>と進路指導に関する肯定率は順調に向上している。オンラインも含めた説明会を丁寧に行っていることの成果と言える。
- ・「桜塚高校では、生徒に対するプライバシーや人権が守られている」(95.4%) <R3 95.2% R2 91.3%>は、引き続き高い肯定率となった。教育現場における基盤であるため、今後も組織的に徹底する必要がある。
- ・「桜塚高校が保護者に出す文書・事務連絡等は適切である」(92.1%)、「桜塚高校によるメール発信は役に立っている」(97.0%)という高い満足度は、本校からの情報発信が有効であり、保護者連携の大切なツールとなっていることの表れである。今後も、保護者連絡用一斉メール配信システムに加えて、学習支援クラウドサービスを活用し、さらに保護者との繋がりを強化するとともに、ペーパーレス化も推進していきたい。
- ・「桜塚高校はいじめや相談事について子どもが困っているときことがあれば真剣に対応してくれる」(84.2%) <R3 81.3% R2 76.6%>の肯定率が順調に向上している。教員による生徒への寄り添いが保護者に伝わっている。社会に変化とともに生徒の多様化が進む中、またコロナ禍により不安定な生徒が増える中、引き続き、生徒が安心安全に通える学校づくりをめざしていきたい。

<今後の課題として>

- ・最も低かったのは「桜塚高校の施設・設備は学習環境の面で満足できる」(59.4%) <R3 56.5% R2 55.6%>の肯定率であった。特に自由記述ではトイレの改装について要望が多く見られた。

【教職員対象教育自己診断】

- 母数が少ないため有意差が何ポイントであるかという判断は難しいが、昨年度比5%以上増加・減少した項目および2年間で大きく変化した項目に着目し総括することとする。
- ・「学校の教育活動について教職員で日常的に話し合っている」(84.9%) <(R3 91.3% R2 89.6%)> が、昨年度から6.4ポイント下がった。高い値ではあるものの振り返る必要がある。教育改革が進む中において学校組織力を向上させていくためには、教員相互のコミュニケーションはとても大切である。今後も、馴れ合いではない協働性のある教職員集団の構築に向けて、首席やコアとなる教員を中心に教員集団の主体性を高めていかなければならない。
 - ・「教職員は生徒の意見をよく聞いている」(98.1%) <R3 86.9% R2 80.9%>が大きく向上した。コロナ禍において、教職員が生徒にしっかりと寄り添っていることの表れであると言える。一方、「生徒自治会活動を通じて、生徒が民主的な手続きを経て、主体的に活動できるよう学校全体で支援している」(75.0%) <R3 82.6% R2 75.0%>が下がったのは、コロナ禍においてなかなか生徒が希望するような行事ができていないことが影響しているのではないだろうか。
 - ・「清掃が行き届いている」(75.5%) <R3 87.0% R2 79.2%>が大きく下がった。校内の美化状況は学習にも影響するため、生徒側の問題なのか教員側の体制なのかをしっかりと総括する必要がある。
 - ・「コンピュータ等ICT機器が授業などで活用されている」(100%) <R3 97.7% R2 91.7%>はついに100%となった。1人1台の端末を活用した教育活動において、府のパイロット校というスタンスで先進的な授業改革をおこなっていることは、現在、本校教育の大きな特色となっている。今後、活用方法のブラッシュアップをおこない、さらなる授業力の向上に繋げたい。
 - ・「アクティブラーニング型の学習指導を取り入れている」(86.7%) <R3 69.6% R2 63.8%>が大幅に向上した。新学習指導要領の趣旨でもある、主体的・協働的な学びに向けて先生方が工夫をしていることを示している。この努力は生徒にも伝わっており学習に関するアンケートの肯定率が軒並み向上している。
 - ・「生徒の問題行動が起きた時、組織的に対応する体制が整っている」(76.9%) <R3 95.6% R2 89.3%> が大きく下がった。問題発生時には担任団と生徒指導部が中心となるが、連携に課題があるのか

も知れない。

改めてしっかりと整理をし、組織的な対応力を高める必要がある。

・「いじめが起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができている」(98.1%) <R3 97.9% R2 95.8%>の肯定率は引き続き極めて高い肯定率である。これは、教職員のカウンセリングマインドの向上はもとより、組織的対応が進んでいることを表している。「いじめ対応委員会」も、いじめの早期対応に機能を果たしていると言える。

・「本校の校内研修は、質・量ともに充実している」(75.0%) <R3 87.0% R2 70.9%>は、昨年度から下がったが、昨年度の肯定率が極めて高かったことによるためであり、今年度の値は決して低い値ではないと考える。今後も「効果(満足感) > 負担」が実感できる研修に向け、内容を精選しながら「為になり、今後に生かすことのできる研修」や「自発的な研修」を進めていくことが大切である。

・「教員間で授業見学し、授業方法について検討する機会を積極的に持っている」(92.3%) <R3 90.9% R2 84.8%>が向上しているのは、公開授業週間をきっかけとした相互授業見学が進んでいることの表れである。

・「桜塚高校では生徒同士や教職員相互、生徒と教職員間で挨拶が自然に交わされている。また、外来者に対してもきちんと挨拶ができている。」(82.7%) <R3 80.4% R2 73.0%>が2年連続で向上したことは、学校組織に流れる空気が良くなったことの証といえる。教員相互の信頼関係、教員と生徒の信頼関係、生徒同士の信頼関係が挨拶の根幹である。教員同士、そして教員から生徒に対し心のこもった挨拶が自然に交わされ、温かい空気が溢れる学校こそが、「生徒の心が育つ」学校であると言える。

<今後の課題として>

・学校が抱える課題の複雑多様化や新陳代謝が進む中、「オール学校」での課題解決や改革をおこなっていく必要がある。今後も、教科や分掌を横断した組織力アップに向け、首席が軸となりながら、風通しの良い職場環境を整えていくことが大切である。また、教育改革の進む中において ICT の活用や新観点別評価の導入など教員の負担は大きい。特にベテランの先生方にとって、長年の経験を変えていくことは大きな労力である。信頼関係で繋がり、チームワーク溢れる教職員集団が相互に助け合う環境づくりが大切であるとともに、システムとしての働き方改革を進めていかなくてはならない。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
1 学 ぶ 力 を つ け る	<p>1. 確かな学力の育成と授業改善。</p> <p>(1) ノートパソコン等端末活用授業で、意欲・関心や情報活用能力を高める。</p> <p>(2) 英語の4技能を高める。</p> <p>(3) 生徒の進路実現を支援するため、きめ細かい進路指導をおこなう。</p> <p>(4) 「授業力向上等検討委員会」を中心として、生徒授業アンケートも活用し、授業改善を図る。</p> <p>(5) 桜塚の総合的な探究の時間をまとめていく。</p> <p>(6) 新学習指導要領の趣旨を踏まえた、観点別学習評価を進める</p> <p>(7) 図書館の「学習・読書・情報」の核としての機能再生を整備する。生徒の利用者数増の取組み推進。</p> <p>(8) 専門コース制を生かし、学力アップを図る。</p> <p>(9) 放課後を活用した講習を発展させ、専門的知識の習得に主体的に取り組む態度を育成する。</p>	<p>新学習指導要領、高大接続改革を踏まえ、「学びに向かう力・人間性」「基礎学力の定着・活用」をはかる。</p> <p>(1) タブレットを活用した授業形態に取り組む。「調べ学習」、「小テスト」、「プレゼンテーション」といった活動を通して、生徒の主体的かつ協働的な学びを創出する。さらに、教育産業や教員による学習動画を活用することにより、学びなおしや基礎固めのサポートをおこなう。</p> <p>(2) GSC の授業で、大学から講師を招聘し、Speaking 力の向上をめざす。全学年でリスニングテストを実施する。</p> <p>(3) 進路講演会、保護者説明会を充実させる。進路ホームルームを活用し、多様な生徒個々の第1希望進路の実現に向け、きめ細かい進路指導をおこなう。</p> <p>(4) ICT 機器の活用や授業形態の工夫、観点別評価等により、生徒が主体的に参画する授業への改善を図る。授業力向上等検討委員会構成員に、10年経験者研修受講者及びアドバンスセミナー受講者も含め効果的にすすめる。教員相互の授業見学や生徒授業アンケートの結果を効果的に活用するためにも、教科で十分な協議ができる時間を確保する。</p> <p>(5) 地域や企業等との連携や教育産業による分析システムを活用する等、幅広い取り組みを通して総合的な探究の時間の充実を図る。</p> <p>(6) 観点別評価が導入されることに伴い、生徒に対して評価の観点を明確に示すとともに、適正な評価をおこなう。</p> <p>(7) パソコン等の活用を通して図書館利用を促進し、情報活用能力を育成する。</p> <p>(8) 専門コースが学校全体を牽引し、学力の更なる効果的な向上を図れるよう、効果的なカリキュラムやコース制のブラッシュアップを検討する。</p> <p>(9) 5:30以降の講習「桜塾」を英語1教科に重点化し、英語検定合格に特化した内容に改編する。</p>	<p>(1) 生徒向け学校教育自己診断「ノートパソコンを授業・ホームルームで活用する機会がある」肯定率90%維持。[93.0%] 「授業などでコンピュータやプロジェクターを活用している」肯定率90%維持[94.9%]</p> <p>(2) 大学連携授業を年2回以上実施。[2回] ①英検2級以上100名合格、準2級150名合格。[2級以上88名、準2級135名]</p> <p>(3) 生徒向け学校教育自己診断「進路についての情報を知らせてくれる」肯定率85%維持【86.9%】</p> <p>(4) 生徒向け学校教育自己診断「授業では自分の考えをまとめたり、発表したりする機会がある」肯定率80%以上[78.5%] 教職員向け学校教育自己診断「授業見学し、授業方法等について検討する機会を積極的に持っている。」肯定率90%維持。[90.9%]</p> <p>(5) 生徒向け学校教育自己診断「将来の進路や生き方について考える機会がある。」肯定率90%維持。[92.5%]</p> <p>(6) 生徒向け学校教育自己診断「評価の仕方や基準について事前に示されている。」肯定率80%維持 [81.6%]</p> <p>(7) 図書室の利用者数3,000名以上[1,605名]</p> <p>(8) 共通テストの自己採点において、専門コース生徒(英語・数学)の全国平均を超える得点。[英語+9、数学+10]</p> <p>(9) 講習受講者150名以上。 [英・国・数を合わせて140名、うち英語70名]</p>	<p>(1) 生徒向け学校教育自己診断「ノートパソコンを授業・ホームルームで活用する機会がある」97.6%、「授業などでコンピュータやプロジェクターを活用している」97.7%、ともに指標を上回った。リーディングGIGAハイスクールの指定を受けた次年度も、大阪府のアクションプランに基づき、「双方向的な活用」「協働的な活用」「個別最適な学びに向けた活用」など、効果的な活用に向けブラッシュアップしていきたい。(◎)</p> <p>(2) 大学出張授業は2回実施した。(○) 英検合格者準1級1名、2級87名、準2級184名。(R4.12月時点) 桜塾での英検講座には192名が参加し、英検取得に向けて講習を受講した。アンケートの結果、生徒の満足度は高かった。(○)</p> <p>(3) 過去に生徒の肯定的評価が極めて高かった講師を招き、事前打ち合わせをしっかりと行った上で生徒向け進路講演会を1年生9月、2年生11月に実施。保護者向け講演会は1年生5月、2年生12月に実施。講演会後のアンケートでは肯定的な回答が多数であった。また、進路ホームルームは、3年生だけでなく、1年生2年生でも進学にかかる費用や大学入試の概要、日程などについて実施した。生徒向け学校教育自己診断「進路についての情報を知らせてくれる」肯定率は89.9%であった。(○)</p> <p>(4) 授業相互見学や授業公開、全体研修や自主的な研修、10年経験者研修や教科横断授業の設定など様々な機会を利用して授業力の向上と授業改善に取り組んだ。生徒向け学校教育自己診断「授業では自分の考えをまとめたり、発表したりする機会がある」の肯定率は87.6%と指標を大きく上回った。また、教職員向け学校教育自己診断「授業見学し、授業方法等について検討する機会を積極的に持っている。」の肯定率も92.3%と高かった。(◎)</p> <p>(5) 今年度も引き続きキャリア教育を主眼とし、内容をアップデートして取り組んだ。生徒向け学校教育自己診断「将来の進路や生き方について考える機会がある。」の肯定率は93.5%であった(○)</p> <p>(6) 1年生各科目に学期はじめに判断基準票の作成を依頼したり、職員研修で観点別評価方法の共有を行うなど、生徒への周知・教員間の情報共有を図った。生徒向け学校教育自己診断「評価の仕方や基準について事前に示されている。」は87.9%と指標を大きく上回った。(◎)</p> <p>(7) 図書館利用者累計数は令和5年2月28日現在で1940名と指標には届いていない。例年2学期以降、昼休みも放課後も3年生の利用者でいっぱいになるのが普通であったが、この3年間はコロナの影響で伸び悩んでいる。(△)</p> <p>(8) 共通テストの自己採点において、英語(リーディング・リスニング)平均点は124点で全国平均(センター中間発表)118点+6点、数学(IA・IB)平均点は118点で全国平均123点-5点であった。(△)</p> <p>(9) 受講者は192名と例年より大幅に受講者数が増えた。次年度は英検の試験日に合わせ3ターム制で実施し、さらなる生徒の意欲、満足度の向上を図る。(◎)</p>

府立桜塚高等学校

2 人間力をつける、規律、安全安心について	<p>2. 人間力をつける</p> <p>(1) 道徳教育の推進。「あいさつ運動」をすると共に遅刻数の減少。規律、礼儀について</p> <p>(2) 教育相談体制の充実。自己肯定感を大切にする。</p> <p>(3) 人権問題の解決をめざした教育を組織的に推進する。</p> <p>(4) 地域連携・地域貢献活動・国際交流活動を促進する。</p> <p>(5) 体育祭・文化祭等の行事や部活動、自治会活動等を通じて生徒に達成感や自尊感情を育む。</p>	<p>(1) 丁寧に組織的な生活指導により、基本的な生活習慣の確立や交通ルールを初めとする社会規範の醸成、学習規律の向上をはかる。また、人間関係構築の基本である挨拶の習慣を身につけるための取組みを組織的にこなす。</p> <p>(2) 「生徒一人ひとりを大切に」教育を推進し、カウンセリングマインドを取り入れた指導を組織的に行い、生徒相談機能を高める。</p> <p>(3) 人権 HR や講演会を初めとする様々な場面を通じ、性別、障がい、国籍等による差別、SNSによる人権侵害、同和問題などあらゆる人権問題に関する知識・理解を高める教育を推進する。</p> <p>(4) 国際交流活動による異世代・異文化との交流を通して、グローバルな視野を育成する。イベントや防災活動などでの相互連携を通して、地域に愛される学校をめざす。</p> <p>(5) 生徒が主体的に運営する部活動や、自治会活動等を創出する。さまざまな活動を通じて生徒に達成感や自尊感情を育む。</p>	<p>(1) 生徒向け学校教育自己診断「生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている。」肯定率 80%以上。[78.5%] 「学校では挨拶が自然に交わされている。」肯定率 80%以上。[79.0%] 年間遅刻数 1,800 以下。[1,832]</p> <p>(2) 教職員向け学校教育自己診断「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる」肯定率 93%維持。[93.5%]</p> <p>(3) 生徒向け学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」肯定率 85%維持。[85.6%]</p> <p>(4) 年間 3 回以上の国際交流事業の実施。[コロナの影響で未実施]</p> <p>(5) 教職員向け学校教育自己診断「学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫・改善を行っている」肯定率 90%以上。[84.8%]</p>	<p>(1) 生徒指導部を中心とする粘り強い指導の結果、生徒向け学校教育自己診断「生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている。」の肯定率は 80.1%とさらに向上し、「学校では挨拶が自然に交わされている。」も 80.6%と指標に届いた。(◎) 年間の遅刻数は 3296 と、コロナの影響もあり、目標を達成できなかった。(△)</p> <p>(2) 生徒相談・いじめについてのアンケートを実施するとともに、相談窓口を周知し教育相談体制を充実させたが、教職員向け学校教育自己診断「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる」肯定率は 92.3%であった。(△)</p> <p>(3) 生徒向け学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」の肯定率は 87.4%であった。「自己肯定・他者理解」両面からの人権教育をテーマに「部落差別問題」などの不易の課題から、「性的マイノリティー」などといった日々情報がリニューアルされるような課題をテーマに、引き続き取り組んでいきたい。(○)</p> <p>(4) 中国高校生とのオンライン交流(国際交流基金が仲介)を 3 回実施した。留学に関する意識調査(3 年抽出)では 57.9%の生徒が将来の留学を希望している。クラブや教科での地域連携活動への参加も昨年度に比べ徐々に増加した。(○)</p> <p>(5) 教職員の学校教育自己診断「学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫・改善を行っている」の肯定率は 88.4%、昨年度より向上したものの 90%には届かなかった。(△)</p>
3 地域の信頼される学校としての桜塚を促進・広報する	<p>3. 地域の信頼される学校を促進・広報する</p> <p>(1) 豊中市役所等の公的機関、大学等との連携と支援を生かした取組みを展開する。</p> <p>(2) 岩手県立大槌高等学校との連携事業の発展。「地域と共に」を大切に「防災」の取組みを推進する。</p> <p>(3) Web Page を活用した広報活動を積極的に行う。生徒による更新も推進する。</p>	<p>(1) イベントにクラブが出演するなど、地域との連携を深化する。大学との連携授業を通して生徒の自己実現を支援する。(OB・OG、豊中市役所をはじめとする公的機関、大学、各種団体との連携と支援を生かした取組みを展開する。</p> <p>(2) 平成 24 年度に岩手県立大槌高等学校と締結した「さくら協定」に係る事業を進展させ、持続的な支援や交流を行う。H30 年度の大きな自然災害の経験と、「地域と共に」を大切に「防災」の取組みを推進する。</p> <p>(3) Web Page の画面を見やすくするとともに、生徒による「部活動・自治会ブログ」の更新を推進し、学校の元気な様子を内外に発信する。</p>	<p>(1) 生徒向け学校教育自己診断肯定率「豊中市等のイベントにさまざまなクラブが参加するなど地域連携を行っている。」肯定率 70%以上[R3 はコロナ感染症の影響により全て中止になったため教育自己診断を実施せず。(参考) R1 68.2%]</p> <p>(2) 訪問やオンラインによる年 1 回以上の相互交流を実施。[2 回]</p> <p>(3) 教職員向け学校教育自己診断「情報提供の手段として、学校のホームページが活用されている」肯定率 90%維持[95.6%]</p>	<p>(1) 豊中市等との連携は、自治会やクラブ単位での交流を実施した。しだれ桜の一般公開は新型コロナ感染防止のため中止。阪大関大との連携および外部講師招聘を通じた他大学との連携は可能な範囲で実施した。生徒向け学校教育自己診断肯定率「豊中市等のイベントにさまざまなクラブが参加するなど地域連携を行っている。」肯定率は 70%であった (○)</p> <p>(2) 岩手県立大槌高校との連携は、オンラインを活用して自治会生徒を中心に実施するとともに、修学旅行で交流。指標としていた 2 回の交流を実施することができた。(○)</p> <p>(3) 生徒による「部活動・自治会ブログ」は積極的に更新している部活動とそうでない部活動があった。教職員向け学校教育自己診断「情報提供の手段として、学校のホームページが活用されている」肯定率は 90.4 と指標に届いた (○)</p>
4 グローバルリーダーの育成	<p>4. グローバルリーダー育成</p> <p>(1) 国際社会で通用する人材の育成を目的とした国際交流を積極的に進める。</p> <p>(2) コミュニケーション能力の育成に努める。専門コース制を生かし、より英語等を強化し、高い志と夢を持ったグローバルリーダーを育成する。</p>	<p>(1) 生徒への情報提供、ニーズ把握等を積極的におこない、忠南外国語高校との姉妹校協定を生かした取組みを初めとする海外研修・留学(長期・短期)・海外進学を推進する。</p> <p>(2) 「課題研究」の内容の再検討と更なる充実。「英語理解」におけるネイティブを含む大学講師の授業を依頼する。「第二外国語」「国際理解」など専門科目の充実</p>	<p>(1) 生徒向け学校教育自己診断「留学生や国際交流等を通じ、国際理解について学ぶ機会がある。」肯定率 85%以上[R3 は緊急事態により、ほとんどの事業が中止になったため診断できず。(参考) R1 68.2%]</p> <p>(2) 授業評価における生徒意識「授業内容に、興味・関心を持つことができたと感じている」と「授業を受けて、知識や技能が身についたと感じている」の項目、2 回の平均値 3.4 以上 [3.3]</p>	<p>(1) 姉妹校との複数回のオンライン交流を実施。アジア架け橋プロジェクト等の留学生を 4 名受け入れた。生徒向け学校教育自己診断「留学生や国際交流等を通じ、国際理解について学ぶ機会がある。」肯定率 70%と指標に届かなかった。来年度は韓国の姉妹校が来校予定である。(△)</p> <p>(2) 「課題研究」は、豊中市の青少年事業や他校でも発表の機会をいただいた。第二外国語の韓国語・中国語では、韓国・中国の高校生とのオンライン交流や、国際理解の授業における広大連携事業による大学教員の授業なども実施した。専門科目(「国際理解」「韓国語」「中国語」「課題研究」)における評価指標の平均値は 3.6 であった。(◎)</p>

府立桜塚高等学校

<p>5 チーム力を生かした学校の組織力の向上と活性化</p>	<p>5. チーム力を生かした学校の組織力の向上と活性化</p> <p>(1) 全・定併置校の特色を活かした取り組み。</p> <p>(2) 教科ごとの組織力をアップし、次世代を見据えた教科教育を推進する。</p> <p>(3) 運営委員会メンバーを中心に、分掌・教科のセクショナルリズムにとらわれることなく、本校教育活動について教職員が日常的に話し合える雰囲気醸成する。</p> <p>(4) 分掌に位置付けられない組織（Sakura Project Team）の取り組みを推進させる。</p> <p>(5) 「学び続ける」教職員の組織的・継続的な人材育成を図る。</p> <p>(6) 働き方改革による、教職員の健康管理を推進する。</p>	<p>(1) 全・定併置校の特色を活かし、互いの協力関係を密にし、更に有効有意な関係を構築する。</p> <p>(2) 学習指導要領改訂に伴う教授法や評価法等の改革に対応するため、教科ごとの組織力を高める。さらに、全教職員が教科の枠を超えた広い視野で本校の教育力の向上を図る。</p> <p>(3) 首席を軸としたミドルアップ的な組織体制を構築し、運営委員会のメンバーが学校全体の立場から意見交換を行うとともに、分掌・学年の連携のもと、本校の課題に対する基本的な方向性を確立する。</p> <p>(4) 首席を軸に③SPTの取り組みをさらに機能させ、朝学、国際交流などといった本校の特色、魅力のアップを図る。</p> <p>(5) 教育課題の変化や多様化に対応することのできる教職員の組織的・継続的な育成に向け、校内研修を充実させる。</p> <p>(6) 部活動指導における外部指導者の積極的活用、行事の見直し、学年・分掌業務の平準化、②さらに担任に偏りがちな業務を副担任に割り振ることや、授業持ち時間の校内基準を見直すなどの取り組みにより、時間外勤務削減をはかる。</p>	<p>(1) 教職員向け学校教育自己診断「全定の教職員は、同じ施設を使用するにあたり相互に連絡を取り合い、協力して行っている。」肯定率 65%以上。[62.2%]</p> <p>(2) 教職員向け学校教育自己診断「教育活動全般にわたる評価を行い次年度の計画に生かしている。」肯定率 80%維持。[82.2%]</p> <p>(3) 教職員向け学校教育自己診断「各分掌や各学年の連携が円滑に行われ、有機的に機能している。」肯定率 75%以上。[74.5%]</p> <p>(4) 教職員向け学校教育自己診断「本校の教育活動には、他の学校にない特色がある。」肯定率 85%維持。[89.1%]</p> <p>(5) 教員向け学校教育自己診断「本校の校内研修は質・量ともに充実している。」肯定率 80%維持。[82.6%]</p> <p>(6) 月平均残業時間 80 時間以上の教員をなくす。[1名] ストレスチェックの全校平均値 100 以下。[95]</p>	<p>(1) 全教職員による全定合同職員会議は、業務軽減のため実施せず、必要に応じて全定管理職会議および担当者連絡会を開催し協力関係を構築した。教職員向け学校教育自己診断「全定の教職員は、同じ施設を使用するにあたり相互に連絡を取り合い、協力して行っている。」は 66%であった。(○)</p> <p>(2) カリキュラム委員会および授業力向上等検討委員会を中心に、観点別評価試行等の取り組みを通じ、教科ごとの組織力をアップし、新カリ、観点別評価の本格実施に向けて教科が一枚岩となり教科教育を推進した。教職員向け学校教育自己診断「教育活動全般にわたる評価を行い次年度の計画に生かしている。」肯定率は 81.1%であった。(○)</p> <p>(3) 運営委員会を軸に意見交換や調整をおこない、有機的な校務推進を心がけたが、教職員向け学校教育自己診断「各分掌や各学年の連携が円滑に行われ有機的に機能している。」の肯定率は 73.1%と指標に届かなかった。(△)</p> <p>(4) 広報、朝学、国際交流などの SPT を軸に、教職員からの意見収集や議論を重ね、本校の魅力化に向けて取り組んだ。教職員向け学校教育自己診断「本校の教育活動には、他の学校にない特色がある。」は 84.9%と指標に僅かに届かなかった(△)</p> <p>(5) 全体研修に加え、ICT 活用研修などの自主研修会など、効果的な研修会を開催した。教職員のスキルアップに繋げることはできたが、教員向け学校教育自己診断「本校の校内研修は質・量ともに充実している。」は 75%にとどまった。(△)</p> <p>(6) 進路関係の一部業務を副担任が担う等、担任業務の負担軽減を図るとともに、ノークラブデーの確実な実施や全庁一斉退庁日の推進を行った。12月時点で月平均超過勤務 80 時間以上の教員は 1 名いる。今後も引き続き、業務の平準化に取り組んでいく。ストレスチェックの全校平均値は「95」と良好であった。(○)</p>
-------------------------------------	--	--	--	---